

12/10

道徳授業研究会

十二月十日に開催された授業研究会は、二年生と高江先生による道徳授業、立命館大学・武庫川女子大学講師の松原先生による講演と、ICT活用事例の紹介を組み合わせた密度の高い時間となりました。授業テーマは「礼儀とは何か」。

教材「お通夜のこと」を通じて、生徒たちと礼儀の「行動（形）」と「気持ち（精神）」へと思いを深める授業が展開されました。

参加した先生方からは「生徒の答えに対して、考えの深まる切り返しの発問をするのが難しい。」という瞬時の問い返しの難しさについて、質問が出ていました。

（パドレットにて集約）

また事後アンケートでは、松原先生が引用された「道徳は自由と同義である」という道徳科授業の核心に触れる言葉が強く印象に残ったという回答が多数寄せられました。

これは従来の「正解探し（よい子の答え）」や「予定調和的」な道徳科授業から脱却し、「ともに考えることを楽しむ」という、生徒の内面に寄り添いながら、他者とともに様々に考えを拡げ、深めようとする道徳科の授業づくりの必要性を示しています。

2025.12.15
VOL.19

学ぶ喜び

ー仲間とともにつながる学校へー



これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。

道徳科の授業の究極の目標は、生徒たちが「難しかったけど、考えることがおもしろかった」と感じる経験を提供すること。

学力とは無関係に、誰もが人間としての生き方について深く考え、そのプロセス自体を楽しむことができるのが道徳授業の最大の魅力。そんな道徳の授業を創ることができたら、どんないいことがありそうかを、事後研では考えてみました（右のQRからシートにとべます）。

時間のなかで、PadletやCanvaの紹介も兼ねさせていただいたので、じっくりと対話をする時間を確保できず失礼しました。

私たち教職員も授業の方法論のみならず、なぜ、道徳の授業をするのか、道徳の授業をすることで、どんな良いことがあるのかというような、本質に迫る対話をしていくこと（生徒と一緒に積み重ねること）が授業観の転換につながると考えています。

「学ぶこと」を知る者はこれを好む者に如かず。「学ぶこと」を好む者はこれを楽しむ者に如かず、

「（道徳）授業づくり」を知る者はこれを好む者に如かず。「（道徳）授業づくり」を好む者はこれを楽しむ者に如かず、ですね。

（実は、中3国語の教科書に載っています）



12/10事後研で使った
Canvaシート